

伊丹市立演劇ホール(アイホール)の存続を望みます！

伊丹市長 殿 伊丹市議会 殿

趣旨 私たちは、伊丹市立演劇ホール(アイホール)の存続を強く望みます。
文化的で豊かな人間性を育む役割を担う公共財としての施設だからこそ、採算性や経済効率のみでその存廃を判断しないでください。

嘆願の理由

- 現在、兵庫県伊丹市は、伊丹市立演劇ホール(アイホール)について、使用用途を舞台芸術に限定することなく、施設の新たな事業展開の可能性を探るため、民間企業に向けてサウンディング調査を実施しています。
- この調査が進み、舞台芸術以外の新たな事業が発案・事業化されると、アイホールは公共の演劇専門ホールとして存続が困難となり、事実上廃館となってしまいます。
- アイホールは、1988年の開館以来、演劇専門ホールとして、関西だけではなく日本全国および海外の優れた舞台芸術作品の上演を実現してきました。また市内の小学生、中学生、高校生を対象とした演劇ワークショップを行い、優れたアーティストを派遣するアウトリーチ事業を展開するなど、市民の皆様に質の高い舞台芸術を身近に体験できる拠点施設として、その役割を果たしてきました。
- 舞台芸術の拠点であるアイホールの廃館は、伊丹市民にとって、また、関西の多くの人々にとっても、多様なジャンルの優れた舞台芸術作品を享受できる機会を失うこととなります。そして、全国から伊丹市に訪れる上演団体にとっては、貴重な発表の場を奪われることとなります。
- もとより伊丹市は、2018年3月に市の文化振興にかかる指針を作成し、「文化施設が個々にとって心のよりどころになってもらえるよう、文化芸術がそばにあるまち」を目指し、施策を進めるとしています。また、第6次伊丹市総合計画においても「多様なジャンルの文化芸術に触れる機会を提供する」と明記しています。
- また、国の「文化芸術基本法」(2017年6月改正)では、文化芸術により生み出される様々な価値の社会への波及効果を図ること、また、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業などが文化芸術に関連する分野と連携することの重要性について言及されています。アイホールは、そこで生み出される芸術的価値を社会的価値につなげ、まちづくりに活かすための拠点となってきました。
- このようにアイホールは、舞台芸術関係者の活動拠点のみならず、広くシビックプライドの向上に寄与する伊丹市のシンボルとなっています。文化的で豊かな人間性を育む役割を担う施設である公共財としての演劇専門ホールを、採算性や経済効率のみでその存廃を判断することは、これからの伊丹のまちづくり、伊丹市の未来にとって、大きな損失になるのではないのでしょうか。

上記の理由により、私たちは、伊丹市立演劇ホール(アイホール)の存続を強く望みます。

署名にご協力ください (この署名用紙は、ダウンロードやコピーをしてご利用いただけます)

氏名	住所

※ご記入の氏名・住所は、伊丹市および伊丹市議会へ提出する目的以外に使用することはありません。
※署名は、ボールペンまたはサインペンで自署いただき、下記住所までご郵送ください。(FAX不可)

呼びかけ・署名受付団体: アイホールの存続を望む会 代表 小原延之
〒542-0083
大阪府中央区東心斎橋2-1-27 周防町ウイングス5階C号室
NPO法人大阪現代舞台芸術協会(DIVE)内
Tel&Fax:06-6211-5995
mail:aisonzoku@gmail.com